

# 本校生における性意識と性行動について

保健体育科 上原信子

## 1. はじめに

戦後の日本における科学技術の進歩は国民の生活構造や生活意識など生活すべての面に変革をおよぼした。性や男女関係についても当然影響をうけ、意識面、行動面ともに解放的になり多様化している。生活様式の改善、食生活の向上が身体的性成熟を促し、マスコミによる性情報の氾濫が精神的性成熟を早めている状況の中で、性教育の必要性が求められ、青少年を対象にした性意識調査が各地で行なわれている。昭和56年、総理府青少年対策本部の委託を受け、日本性教育協会も全国75校（高校、短大、大学）の青少年 21,255名を対象とした調査を行なった。同協会は昭和49年にも調査を行なっているが、この7年間の変化に注目してみると性意識面は大差なく性行動面において早期化傾向が認められる。特に女子の性行動面の活発化現象を同協会では指摘している。この全国的な早期化、活発化の波は当然本校生にも押し寄せているものと思われる。そこで、本校生における性意識、性行動について調査し、生徒の現状を把握する目的で本研究を行なうこととした。この研究により、本校生の実態に即した効率的な保健学習－性教育－をすすめていきたい。なお、今回は調査結果の報告にとどめることをお許し願うとともに、諸先生方の生徒指導、生活指導の一助になれば幸いである。

## 2. 調査方法

### (1) 調査方法

調査項目は性教育協会の調査項目を主とし、本校独自の項目を加えた。項目は4分野からなる。

- A. 生理的性成熟 — 射精経験、月経経験
- B. 心理的性成熟 — 性的関心、異性接触欲、特定異性接触欲、性的興奮、キス欲
- C. 性行動 — デート経験、接触経験、キス経験、ペッティング経験、性交経験、マスター・ベーション経験
- D. 性の社会的側面 — 婚前性交の是非、性教育の有無、知りたい性知識、マスコミの影響

なお、調査用紙は1人5枚、1・2年生は保健、3年生は体育の授業で調査を行ない、無記名で記入させた。

### (2) 調査時期

昭和57年9月

### (3) 調査対象

東京学芸大学附属高等学校 全学年 1,060名（男子 550名、女子 510名）

### (4) 集計

集計は本校保健委員（1・2年生）16名の協力を得て行なった。無回答のもの、無効のものを除いて集計したため、項目により多少人数は異なる。

### 3. 調査結果

#### A. 生理的性成熟について

##### (1) 射精経験

「今までに射精経験があるか」の問に対し、明確に答えた者のうち、あるが99%，ないが1%である（図1）。次に初めての射精に注目してみると、自慰46.2%，夢精45.6%で大多数がこの2つによって精通を経験している（図2）。全国の高校生の精通は自慰によるもの50.8%と多く、次の夢精（36.2%）との間に15%近くの差がある。以前は夢精の方が多かったのだが、自慰が多くなり逆転した後は差を広げているのが現状である。経験した年齢は12～14歳が70.3%と多く、小学校の時に経験した者が17.8%と次に多い（図3）。

図1. 射精経験

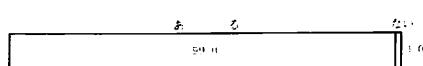
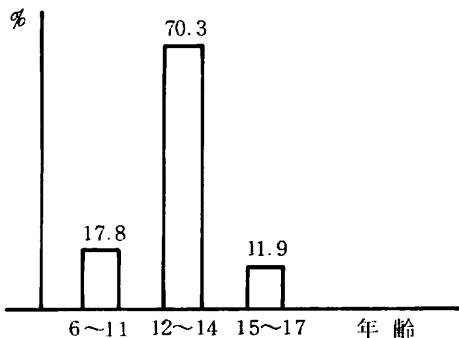


図2. 初めての射精を経験した時



図3. 初めての射精年齢



##### (2) 月経経験

「今までに月経があったか」明答者493名のうち、ある99.4%，ない0.6%（3名）である。初潮年齢は12～14歳が一番多く、次いで6～11歳であり、経験した者の中96.9%は高校入学前に初潮を迎えていた。

図4. 月経経験

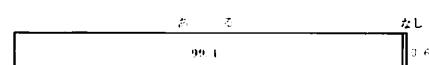
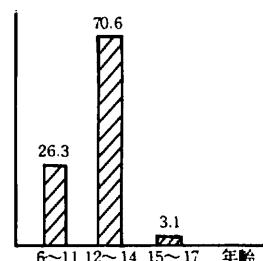


図5. 初めての年齢（月経）



#### B. 心理的な性の発達について

##### (1) 性的関心

「今までに性的なことに関心を持ったことがあるか」の問に対し、男子96.2%，女子83.2%があると答えている（図6）。初めて関心を持った年齢は男女とも12～14歳が一番

## 本校生における性意識と性行動について

多いが、男性の方が女性より早く起こる。この傾向は全国の高校生も同様であり、心理的な成熟面では性差がみられる。

図6. 性的関心

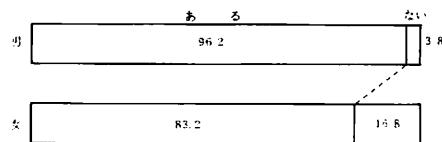
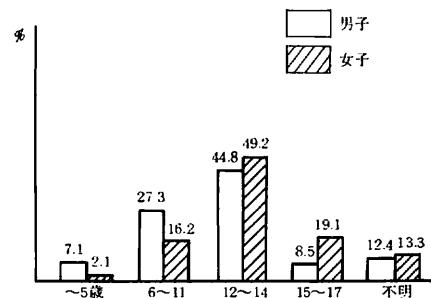


図7. 性的関心の年齢



### (2) 异性接触欲、特定异性接触欲

「なんとなく異性のからだにさわってみたいと思ったことがあるか」の問に対し、あると答えた者 89.3%，ないが 10.7%，女子ではある 17.0%，ない 83% と男女で 70% の開きが出た（図8）。また、「特定の異性についてさわってみたいと思ったことがあるか」の問では、男子 59.5%，女子 22.6% があると答え、男子は漠然とした欲求が高いのに対し女子では特定の異性への感情が先行し接触欲が高まるという性差がはっきりと現れた（図9）。

図8. 异性接触欲

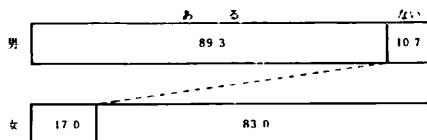
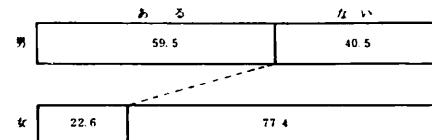


図9. 特定异性接触欲



### (3) 性的興奮

今までに性的興奮を感じたことのあるものは男子 95.9%，女子 43.5% で、前項の异性接触欲と同様、大きな性差がみられる（図10）。「初めてそう感じたのは何歳か」を見ると男女とも 12~14歳が一番多い。

図10. 性的興奮

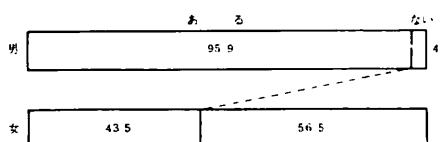
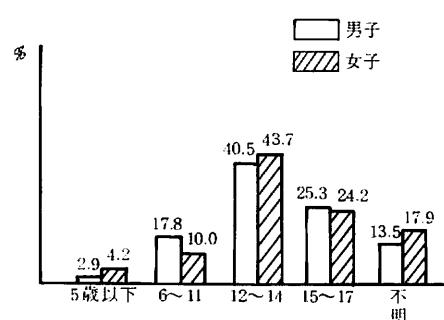


図11. 初めて性的興奮を感じた年齢



何が動機となったかをみると、男性は「週刊誌・雑誌などで性的写真をみていて」が一番多く、それについて「週刊誌などで性的記事を読んでいて」が大きな動機となっている。一方、女性は「週刊誌などで性的記事を読んでいて」が36.5%と大きな動機となっており、テレビ・映画を見てが次に多い。週刊誌・雑誌の性的表現が動機となっている率を合計すると男性57.5%，女性56.1%となり、テレビ・映画などとともに青少年の性的な興奮の喚起に大きく影響している（表1）。

その他の動機として「異性の友人とデートしていて」「偶然に異性のからだにふれて」などがあげられる。

#### (4) キス欲求

今までに性的な意味あいでキスしたいと思ったことのあるものは男子62.4%，女子40.3%，全国高校生の男子66.1%，女子46.0%に比べると、わずかに差がみられる（図12）。また初発年齢分布では男子は12～14歳が44.9%，女子では15～17歳が41.6%でトップとなっており、性的関心、接触欲とともに、男女差があらわれた結果となった（図13）。

### C. 性的行動について

#### (1) デート経験

デート経験のあるものは図14にあるように男子47.1%，女子46.7%で男子がわずかに女子を上回る。全国の平均では逆で、女子が男子を上回っている。

以上の中で現在もデートの相手がいるものは、男子18.0%，女子17.8%となってい（図15）。また、その相手とどのようなつきあい方をしているかをみると表2に示

表1. 性的興奮の動機

順位	動 機	割 合	男		女	
			男	女	男	女
1	週刊誌などで性的写真をみて	22.0	週刊誌などで性的な記事を読んで	36.5		
2	性的な記事をよんで	19.5	テレビ・映画をみて	18.8		
3	週刊誌・漫画などで性的な漫画をみて	16.0	性的なマンガをみて	10.8		
4	テレビ・映画をみて	15.8	性的な写真をみて	8.8		
5	友人と性の話をして	9.4	友人と性の話をして	8.1		

図12. キス欲

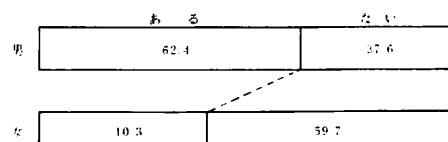


図13. 初めてキスしたいと思った年齢

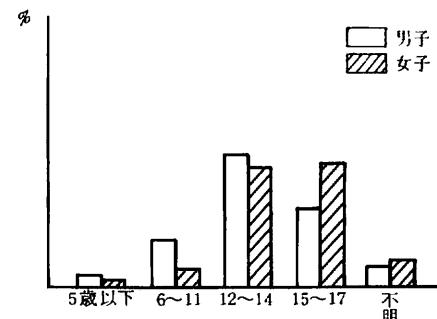
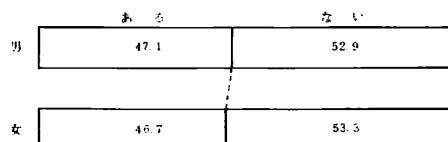


図14. デート経験



## 本校生における性意識と性行動について

図15. 現在もデートしている相手がいるか

	いそ	いない
男	18.0	82.0
女	17.8	82.2

したように男女とも60%以上が「趣味などで行動をともにする」つきあい方である。男子3.1%，女子2.2%がキス、ペッティング、性交まで進んでいる。全国の高校生と比較してみると「趣味などで行動をともにする」が男女とも多く、キス、ペッティング、性交まで進んでいるものが少ない。

### (2) キス経験

キスの経験ある者は男14.9%，女16.2%でわざかに女子が上回った(図16)。初めてのキス経験の年齢をみると、15~17歳が男子54.2%，女子72.0%で一番多い。女子ではわからないが0%であったのに対し男子12.5%という結果がでた(図17)。

キスの動機に注目すると「その人が好き」という理由が男女とも30%近くを占め、次に多いのが「ただ何となく」で、その場の雰囲気でキス経験を持ったものが多いようである。女子の場合の「相手に強要されて」が10%いるのは受身的立場を感じさせる(表3)。

### キスした場所は「公園」

が最も多く、次いで男子では「自分の家」、女子では「相手の家」が多い(図18)。男女とも「学校」が10%以上も占めている点は今後の指導上の問題であろう。

表2. デート相手とのつきあい方

性 別 内 容	本 校		全 高 校	
	男	女	男	女
趣味などで行動をともにする	69.1	64.8	48.8	56.6
手を握る、腕を組む	35.1	31.4	44.2	42.0
キスをする	17.0	14.8	32.0	33.0
ペッティングをする	3.1	5.7	22.5	20.8
性交をする	3.1	2.2	26.4	20.0

(注) 複数回答のため100%を越える

図16. キス経験

	おる	な い
男	14.9	85.1
女	16.2	83.8

図17. 初めてのキス年齢

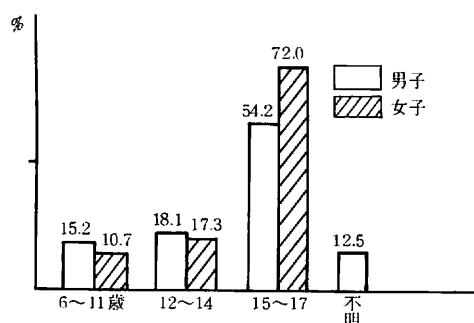


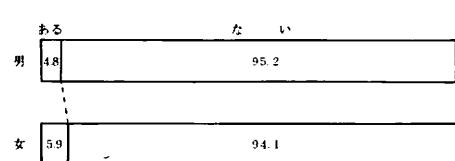
表3. キスの動機

順位	動 機	割 合	動 機	割 合
1	その人が好きだった	31.4	その人が好きだった	29.2
2	ただ何となく	21.0	ただ何となく	16.9
3	その人を愛していた	13.3	好奇心で	11.2
4	性欲がおこって	9.5	キスにあこがれて	11.2
5	キスにあこがれて	7.6	相手に強要されて	10.1

図18. 初めてキスをした場所



図19. ペッティング経験



## (3) ペッティング経験

今までにペッティングの経験があるものは、図19のとおり男子4.8%，女子5.9%である。これは全国高校生男子14.6%，女子17.8%と比べるとたいへん低い値となっている。あるものについて初経験年齢をみると、図20のとおりである。またその際の動機をみると表4に示したように、男子は「性欲，好奇心，ただ何となく，遊び」といったような本能的な動機が50%を占め、「好きだったから，愛していたから」といった心情的動機が42%であるのに対し、女子では心情的動機が46%で本能的動機は25%とはっきり性差があらわれた。しかし、全国の平均値では、男子の動機が「性欲，好奇心，何となく etc」で64%，心情的動機で33%であり、本校男子は本能的動機で性行動に走ることが少ないと見えよう。また、その時の場所は「自分の家，相手の家」が最も多く、男子27.2%，女子52%，次に公園となっている（図21）。

図20. ペッティング経験の年齢

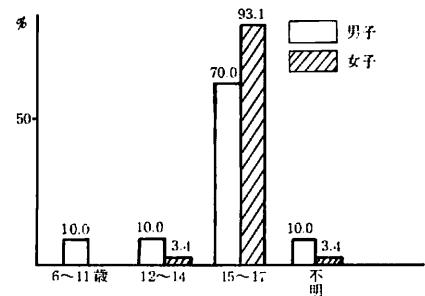
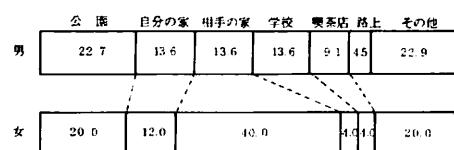


表4. ペッティング経験の動機

男		女		
順位	動機	割合	動機	割合
1	性欲がおこって	26.3	その人が好きだった	25.6
2	その人が好きだった	23.7	その人を愛していた	20.5
3	その人を愛していた	18.4	好奇心で	15.4
4	好奇心で	15.8	相手に強要されて	12.8
5	ただ何となく遊んでやろうと思って	7.9	ただ何となく	10.3

図21. 初めてペッティングした場所



## 本校生における性意識と性行動について

### (4) 性交経験

今までに性交の経験があるものは図22に示したとおり男子3.2%（17名）、女子1.0%（5名）である。対象が少ないが、この22名について、その際

図23. 性交経験年齢

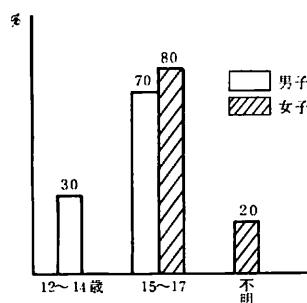


表5. 性交経験の動機

順位	動 機	割合	男		女	
			男	女	男	女
1	性欲がおこって	27.6	27.6	28.6	28.6	28.6
2	その人を好きだった	20.7	20.7	28.6	28.6	28.6
3	好奇心で	17.2	17.2	14.3	14.3	14.3
4	その人を愛していた	13.8	13.8	14.3	14.3	14.3
5	性交にあこがれて	10.3	10.3	14.3	14.3	14.3

の年齢、動機は図23、表5のとおりである。

また、その時の場所を男子17名についてみると、自分の家が最も多く（57.1%）、次いでホテル・旅館になっている（図24）。自分の家、相手の家が性交の場になっていることを親は気付いているのであろうか。

なお、「その時避妊の方法を知っていたかどうか」「避妊を実行したか」の質問に対する回答は、図25、図26のとおりである。知識はあるが、実際に避妊を実行していないものが多く、特に女子についてはその差が大きい。10代の妊娠増加、それにともなう妊娠中絶の増加が問題となっているが、本校の数少ない資料からも、その傾向がうかがわれる。

### (6) マスターべーション経験

今までにマスターべーションの経験があるものは図27のとおりである。

その時の年齢は図28のようになり12~14歳が最も多い。次に現在マスターべーションをしているもの、および週当たりの回数は図29、図30に示したとおりである。

図22. 性交経験

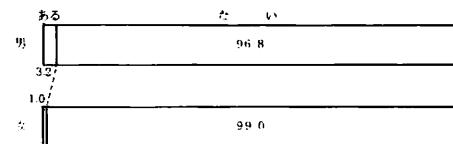


図24. 初めて性交した場所



図25. その時、避妊の方法は知っていたか

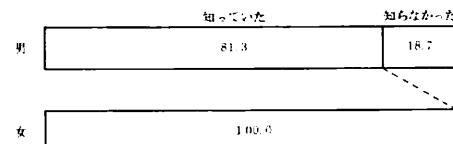


図26. その時、避妊を実行したか

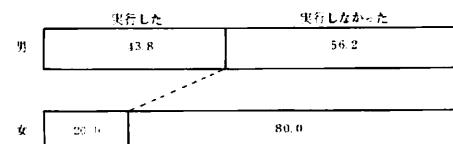


図27. マスターべーション経験

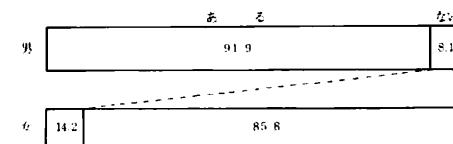


図28. 初めてのマスターべーションの年齢

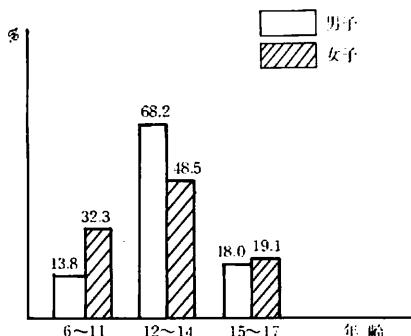


表5. マスターべーションの動機

順位	動機	割合	動機	割合
1	性的に興奮して	20.2	ただ何となく	27.6
2	ただ何となく	15.5	偶然に性器にふれて	19.7
3	好奇心から	11.8	好奇心から	15.9
4	偶然に性器にふれて	10.6	性的な記事をよんで	13.2
5	性的な記事をよんで	10.0	性的に興奮して	7.9

図29. 現在もマスターべーションをしているか

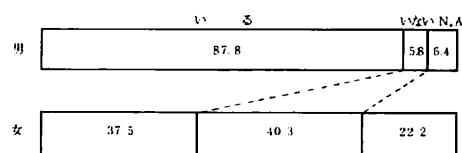


図30. マスターべーションの回数(週当たり)

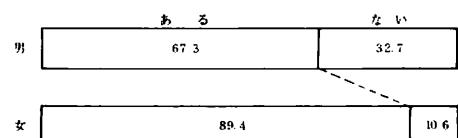
回数	男	女
1回未満	12.4	39.4
1回	6.7	12.1
2回	23.8	18.2
3回	26.8	18.2
4回	15.9	12.1
5回以上	14.4	0

## D. 性の社会的側面について

## (1) 性教育を受けた経験

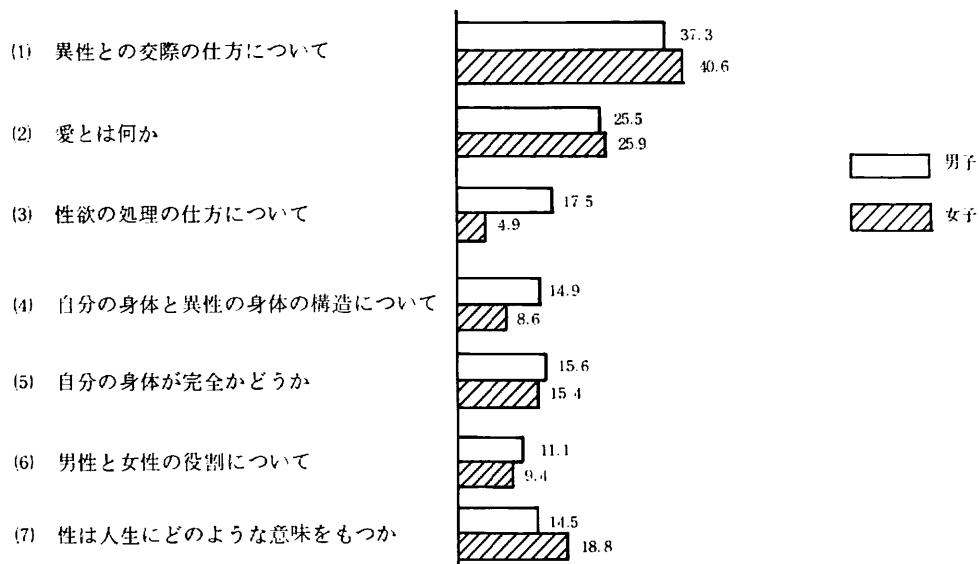
今までに性教育を受けたことがあるかの問に対し、男子 67.3%，女子 89.4%のものがあると答えている（図31）。ないと答えたものの約 50%が必要性を感じている。

なお「性についていちばん知りたいこと」は、図32のとおりで「男女交際の仕方について」が多く、次に「愛とは何か」が多い。



## 本校生における性意識と性行動について

図32. 現在、性についていちばん知りたいことは？



### (2) マスコミの影響について

「あなたは映画・テレビ・雑誌に出てくる性のことが気になりますか」という質問に対し、男子の33.0%のものが大へん気になると答えている。女子は4.7%と少ないが、少し気になるものを加えると男女とも70~80%という数字が出てくる（図33）。

現在、性が商品化されて、さまざまな情報が流れてくる環境のなかで、青少年が悪影響を受けるのは自明の理である。性に対して正しい認識がもてないうちに、マスコミの影響をうけてしまうことが、歪んだ認識につながるのではないだろうか。

### (3) 結婚前の性交渉について

結婚前の性交渉については、「どんな場合でも避けるべき」男9.6%，女34.5%，「お互いに愛情があればかまわない」男72.5%，女61.2%，「愛情がなくてもかまわない」男17.9%，女4.3%と答えている（図34）。全般的に禁欲型から愛情型に移行してきていると思われる。

図33. あなたは映画・テレビ・雑誌に出てくる性のことが気になりますか

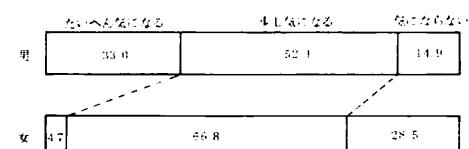
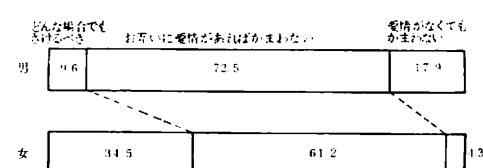


図34. あなたは結婚前の性交渉をどう思いますか



## 4. まとめ

今回の調査にあたっては、年齢を具体的に質問してあったのだが明答者が少なく累積経験率があらわせなかつたことが残念である。しかし、小学校（6～11歳）、中（12～14歳）、高（15～17歳）の区分には答えていたため、大まかではあるが、種々の経験、意識の初発年齢の見当はついたよう思う。

心理的性成熟においては、男子が性的関心、接触欲、性的興奮、キス欲、すべてにわたって早く発現しており、男女の性差がはっきりあらわれた。生理的性成熟の特性からみても、男子の射精経験は性欲につながりやすく、女子の月経は直接性欲には結びつかない点がこの性差のあらわれとなっている。全国高校生の値と比較すると、欲求面においてはやや少ない傾向がみられるが大差はない。

性行動面に注目すると、キス、ペッティング、性交、いずれも全国値よりかなり低い。自己実現欲求の解消、現実からの逃避等の目的で安易に性に走ることなく、適当にブレーキをかけた理性ある行動をとっているものが多いと考えられる。少ない人数ではあるが、性行動の場所についてみると、自分の家、相手の家が多く割合を占めているのが気にかかる。この点については家庭教育上問題が残るのではないだろうか。また学校も、キス、ペッティングについては10%もあり、このような性行動に恰好の場を提供していることになるのであるが、学校全体として対策が必要であろう。

今後、この調査結果をどのように性教育へ生かしていくかが課題となる。知りたい内容について、(1)異性との交際のしかた、(2)愛とは何か、(3)性は人生にどのような意味をもつか、など心理的・社会的側面がより多くあげられている。性教育とは「性を生理的、心理的、社会的側面からとらえ、人間形成の過程を通じて健全で豊かな性知識を培うとともに望ましい性行動を形成すること」を目標としている。ともすれば生理的側面を強調しがちであるが、心理的側面－思春期の心・性的欲求・男女の特性・男女の心の違い、社会的側面－男女交際のあり方・結婚の意義・性と社会、という内容についてより時間をかけば学習効果が上がるものと思われる。なお「婚前性交について愛があればかまわない」と答えているものが60～70%いる現状、および性交経験者の避妊実行率の低さからみても、きちんとした避妊教育が必要であると思われる。今後とも性意識・性行動については推移を見守っていくつもりであるが、この調査結果をもとに、生徒の実態に即した指導をすすめていく必要があろう。

参考文献	「性教育学」	黒川義和他著	明治図書
	青年－意識と行動	松原治郎著	至文堂
	性教育研究 '82年2号	日本性教育協会	小学館
同 上	'75年14号	同 上	同上
	青少年の性行動	同 上	同上